

大阪・大坂城下町跡

おおさかじょうかまち

1 所在地 大阪府中央区伏見町二丁目

2 調査期間 一 二〇〇六年(平18)五月～六月、二二〇〇

六年八月

3 発掘機関 (財)大阪府文化財協会

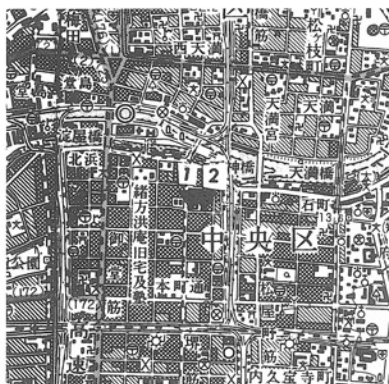
4 調査担当者 黒田慶一

5 遺跡の種類 城下町跡

6 遺跡の年代 一 豊臣後期(一五九八～一六一五年)～元和八

年(一六三二)、二 一七世紀中葉

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪西北部・大阪東北部)

調査地は、三越百貨店本館跡地(〇J〇六―三三)とその東側の同店駐車場跡地(〇J〇六―四四)で、江戸時代の「本鞆町」にあたる。豊臣秀吉は船場開発時(慶長三年(一五九八))に魚市場(鞆町)を当地に置いた。その後、元和四年

(一六二八)に生魚商の一部が上魚屋町(現安土町)に移り、また、同八年に塩干魚商が津村の葭島を開発し新鞆町・新天満町を造つたため、新鞆町と区別して「本鞆町」と称するようになった。

一 〇J〇六―三三調査

調査区は江戸時代の本鞆町の東西通り推定北端から数m北側にあたる。調査区南端から北へ四～一六mの範囲でゴミ穴群を検出した。これらは通りに面した御店の内庭部分に掘られたゴミ穴と考えられる。いずれも船場開発時の整地層上面で見つかり、大坂冬の陣(慶長一〇年(一六二四))の船場焼亡時には埋められていたと推定される。SK一〇一九・一三二は、後世の攪乱のため掘り込み面が不明で、正確な時期を限定できないが、元和八年以前と考えられる。

木簡は、SK一〇一九(長さ一・八m幅一・三三m深さ〇・四m)から一点、SK一三二(長さ二・〇m短径一・三三m深さ〇・五m)から一点、SK一五三(長さ二・〇m短径一・五m深さ〇・九m)から二点、SK一六四(長さ二・三三m以上、短径二・〇m深さ〇・八m)から六点、SK一七九(長さ一・三三m幅一・一m深さ〇・四m)から一点、SK二二八(長さ一・五m幅一・二m深さ〇・七m)から一点、大土坑(東西八・〇m南北八・〇m深さ一・〇m)から七点、計一九点出土した。このうち大土坑の埋土は上・中・下三層に分けられ、(13)～(16)は下層、(17)は中層、(18)(19)は上層から出土した。

二 〇J〇六―四四調査

建設予定建物の基礎が浅いことから、調査は一七世紀中葉の生活面までにとどまった。

木簡は、SK〇一（東西三・五m以上、南北五・〇m以上、深さ〇・八mのゴミ穴）から一点出土した。共伴遺物として肥前陶器の砂目積み溝縁皿、ミニチュアの土釜、棒状の木製人形頭部、馬脚と思われる木製操り人形などがある。

8 木簡の釈文・内容

一 OJ〇六―三次調査

SK一一九

- (1) ・「。(花押)(花押)(花押)(花押)」
・「。東□□□」

108×60×7.5 011

SK一二二

- (2) 「□□屋久左衛門尉」

375×58×9 061

SK一五三

- (3) ・「ハはまち卅五 入合」
□ふく九つ
・「ハ□□彦左衛門」

133×28×9 032

- (4) ・「ハ入大た□」

・「ハ□□」

142×23×4.5 033

SK一六四

- (5) ・「ハめちか五十入」

・「ハ久右衛門」

129×21×5 032

- (6) ・「ハ二郎兵衛」

□□
五連四□

・「ハ右衛門□ 善×

(128)×22×3.5 033

- (7) 「上 百五十入」

(148)×23×3.5 051

- (8) 「ハ(目印)源次兵衛殿」

203×18×1.5 033

- (9) ・「ハ大かます」
□□
小かます

〔百カ〕

・「ハ□□」

88×30×2 032

- (10) たい三十五□入

(116)×20×2 059

SK一七九

- (11) あち百五入」

(113)×18×4.5 059

SK二二八

(12) ・「<えそ三十

」

・「<」

134×57×6 033

大土坑

(13) ・「<小さい廿□入

」

(132)×21.5×6 033

(14) ・「<いわし八□^{〔貫カ〕}(花押)」

・「<」

115×24×4 032

(15) 「さは□百入」

180×25×5 051

(16) ・大むろ三百入」

・「」

(112)×23×4.5 059

(17) ・「<大たこ」

・「<与右衛門尉

(106)×27×4.5 039

(18) ・「<百五十さし入」

・「<」与四郎」

168×20.5×6 033

(19) ・「<さは九十三入」

・「<」

105×25×4.5 032

木簡の多くは〇三二、〇三三、または〇五一型式を原形とする魚介類の付札で、靱町の活動を彷彿とさせる。魚介類の種類も豊富で、はまち、ふぐ、めじか、かます、たい、あじ、えそ、いわし、さば、むろあじ、たこなど、一〇種類以上に及ぶ。(6)の「五連四□」は、古代に調として納められた堅魚の梱包形態を思わせる表記で、あるいはカツオの付札であろうか。(9)の下端は二次的切断。

二〇一〇六―四次調査

(1) ・「<仁わ寺甚左衛門

」

(116)×24×4 033

表面の「わ」は変体仮名で、「王」の字形。河内国茨田郡(現寝屋川市)の「仁和寺」在住の甚左衛門が送った品物に付いて来た荷札と考えられる。

9 関係文献

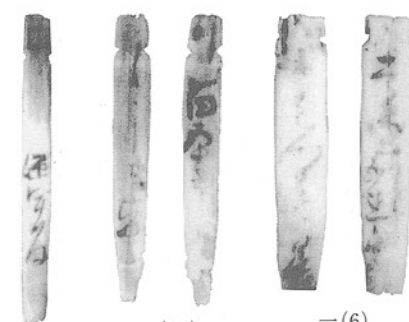
黒田慶一「豊饒なる海―近世初頭なにわ海産物事情」(財大阪市文

化財協会『葦火』二二五、二〇〇六年

丸山真史・松井章・黒田慶一「大坂城下町跡（本靱町地区）出土の動物遺存体の分析」（財大阪市文化財協会『大阪歴史博物館研究紀要』六、二〇〇七年）



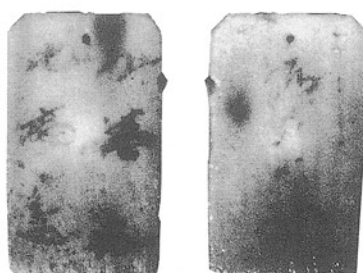
二(1)



一(8)

一(18)

一(6)



一(1)

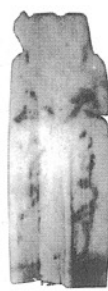
(黒田慶一)



一(5)



一(14)表



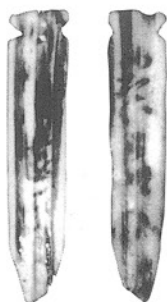
一(9)表



一(19)表



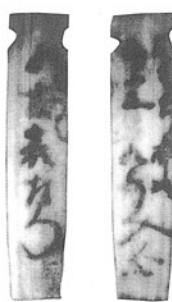
一(17)表



一(13)



一(16)表



一(3)



一(10)



一(11)

(いずれも赤外線画像)